

(五) 諸君の祖國はいつとぞ日本國民の自覺を持つて

諸君が全國民の塗炭の苦みを一日も早く救済せんとする心情は可
とすへきも然らば何が故に純正日本國體原理性より流露開顯さるべ
き維新への御奉公に參加せざるや！

財團政黨特權階級の不逞横暴に激怒する氣持は可とすべきも一何
となれば右徒輩は光輝ある國體を自由主義を信奉する事に依りて民
主國家の建設を企圖狂奔しつゝあり、従つて國體性の破壊は現前に
見るが如き財團專制國民窮乏として志士の決意を愈々固からしめつ
つあるからである。勿論それは諸君が社會主義（それが如何なる社
會主義であらうとも）に眩惑し祖國を蔑視し財團一國體なる惡逆無
慘な思想の下に財團を憎むのあまり赤色労働祭に參加し、五月一日
は全世界の労働者農民の祭日なりしとして一大示威運動を敢行し以
て日本を赤露の支配下に置かんと意圖する。その罪正に斬罪に値す

べきと斷すべきである。特に大衆動員形式（社會主義の理論的必
然的革命戦法）に依りて事を構へんとするに於ては吾等は劍を執り
て敢然紛争るは言を要しない。

無幸の民の血を以て自己意志の實現を計らんとは何んたる弄劣醜
惡なる社會主義幹部の心理なるぞ、勿論革新の必要なるは吾人も同
意ではある、だが吾人の歴史によりて薰陶せられたるものは犠牲で
ある、大君のため祖國のため人狂たることである。御維新は軍人が
戦場に於て屍をさらすと同じ氣持にて遂行さるべきを確信する。國
民を革命の道具として流血せしめ野望を満すことは家族國日本に於
て許さるべきものでは斷じてない。國民のためとは煽動混亂せしむ
る事ではなく無私挺身の活動である、一切の革新原理は茲に基點を
置くべく、日本國民には只一死御奉公の鐵則あるのみである、國民
を愚弄する社會主義幹部は天人共に許さざるところである。